

東京湾環境一斉調査 結果概要について（2020年度）



The Knights

環境省は2020年度における東京湾環境一斉調査の調査結果について取りまとめました。

本調査は、民間企業・市民団体・教育機関・研究機関・地方公共団体等が協働し、モニタリングを実施することにより、国民・流域住民が東京湾再生に関心を持ってもらうことや、東京湾とその関係する河川等の水環境の把握及び汚濁メカニズム等の解明を目的としています。

なお、2008年度から毎年、赤潮、青潮及び貧酸素水塊が発生する夏季に、一斉に東京湾及び流域の河川等において水質調査等を実施していて、2020年度で第13回目の実施となりました。

<概要>

1) 調査日

2020年8月5日(水)を基準日とし、基準日を含む数日間を中心に調査を実施

2) 参加機関

民間企業(81社)、市民団体(3団体)、教育・研究機関(5機関)、
地方公共団体(64団体)、国(8機関)、その他(1機関)等 計162機関

3) 調査地点

海域 559 地点、陸域(河川等)430 地点 計 989 地点

4) 水質調査項目

【海域】 水温、塩分、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透明度

【陸域(河川等)】 水温、流量、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透視度

調査結果については、溶存酸素量(DO)が東京湾奥で高くなっていて、赤潮由来の可能性が考えられます。また、底層においては、湾奥に貧酸素水塊(およそ3.0mg/Lを下回った水塊)が分布していました。

そして、化学的酸素要求量(COD)は海域において全体的に東京湾口よりも湾奥で高い値を示し、陸域においては、鶴見川流域で、他の流域(多摩川、江戸川、荒川流域)と比較すると、低い値となっていました。

当社では、河川水等の環境水分析に加え、多くの排水項目の分析についても長年の実績があり、短納期・多検体での対応が可能です。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談ください。

資料 [2021年3月26日付 環境省報道発表資料](#)

環境検査箇所 鶴谷佳代